

平成18年度子ども読書活動推進事業 「公立図書館等職員・学校図書館関係者合同研修会」

趣 旨 子どもの読書活動を推進するため、蔵書管理・施設整備について研修するとともに、学校と地域の図書館等の連携・協力に対する関係者の意識を深める。

実施主体 県教育庁生涯学習推進課

参加対象 公立図書館職員、公民館図書室職員、学校図書館関係者、市町村行政主管課担当者 他

参加者数 112名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 5時間

場 所 新潟県立生涯学習推進センター

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	8月1日(火) 10:00~15:10	学校と地域の図書館の連携、指導者の 資質向上	講演 新潟青陵大学大学院教授 間藤 侑 事例発表 小千谷市立千田中学校 山並 信彦 東京学館新潟高等学校 渡邊銀次郎 新潟市新津図書館 坂野 良博
1	内容・ 方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講演のテーマは「ことばにときめく力」。「ゲド戦記」をヒントに臨床心理学の視点を交えながら「力の意味」や「間の意味」「体験と経験の違い」などについての講演を行った。 ○ 事例は3事例。中学校からは子どもたちの読書意欲を喚起する工夫、高等学校からは蔵書管理・施設設備の整備を含んだ図書館運営の工夫、公立図書館からは連携・協力を基盤とした年間活動計画の工夫についての発表があった。 ○ 県立図書館からのお知らせ、希望者による県立図書館書庫の見学を行った。 ○ 講演、事例発表共に一斉研修。それぞれ質疑応答の時間を設けた。 	

成 果

- ・ 学校図書館関係者と公共図書館等による合同研修会は貴重な機会であるという意見が多い。双方の実践を知る上で、また、ネットワークを広げていく機会として意義があったと考える。
- ・ 県立図書館の学校支援について周知することができたこと、希望者ではあるが、書庫を見学したことは、県立図書館のピーアールにもつながり、参加者が県立図書館を身近に感じる機会となった。

課 題

- ・ 学校側と公共図書館側が顔を合わせるせつかくの機会であることから、情報交換の場を設定してほしいという要望が多かった。情報交換・意見交換の場を確保するための研修内容や形態の工夫が必要である。
- ・ 推進事業も3年目となり、事例については小・中・高・図書館・行政の各事例を紹介することができた。今後は、ワークショップなど参加体験型研修を取り入れるなど、より実践的な研修も考えていく。

問合せ先 新潟県教育庁生涯学習推進課 成人教育係 (担当 小田智美)
TEL: 025-280-5617

平成18年度子ども読書活動推進事業 「幼稚園・保育所・児童館職員研修会」

趣 旨 幼児期からの読書活動の推進について研修を深め、指導者としての資質と実践意欲を高める。

実施主体 県教育庁生涯学習推進課

参加対象 幼稚園教諭、保育所保育士、児童館職員、市町村行政主管課担当者 他

参加者数 90名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 5時間

場 所 岩船広域教育情報センター

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	8月9日(水) 10:20~15:10	幼児期における読書活動充実のための関係機関の連携、指導者の資質向上	講演 野の花文庫主宰 真壁 伍郎 事例発表 見附市図書館 今井 恵子 見附市中央保育園 山田 厚子 燕市児童研修館 関崎 智弥
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講演のテーマは「絵本のたのしみ～心ゆたかに育つために」。M・Jアンダーソンや神谷美恵子の本の引用や児童書の紹介などを通して、乳幼児期から美しいものに触れさせることなど絵本のすばらしさについての講演があった。 ○ 事例は2事例。保護者会や園外貸出において司書と保育士が連携し、読書活動を推進する公共図書館・保育園の事例、ボランティアとの連携により人形劇などを活用して子どもと本をつなぐ児童館の事例の発表があった。 ○ 講演、事例発表共に一斉研修。それぞれ質疑応答の時間を設けた。 ○ 講演会については、一般にも広報し、参加者を募った。 	

成 果

- ・ 家庭、保護者に絵本の大切さを伝えるための連携の工夫や子どもたちを絵本に導く工夫が豊富な実践を基に述べられ、参加者にとって多くのヒントをもらうことができた内容で有意義であったと考える。
- ・ 子どもの読書活動の周知・啓発の意味では、講演会を一般に開放したことは有効であった。

課 題

- ・ 幼・保・小の連携、公共図書館や家庭・地域との連携など、一層の子ども読書活動推進のため、関係者同士が職種等を越えて共同で研修を行うなど、今後、連携を密にし、豊富な情報のもとに効果的な活動が展開されるよう、研修会の持ち方を検討したい。

問合せ先 新潟県教育庁生涯学習推進課 成人教育係 (担当 小田智美)
TEL : 025-280-5617

平成18年度人権教育指導者研修会

趣 旨 参加体験型プログラムにより、人権教育指導者の資質の向上を図る

実施主体 新潟県教育委員会

参加対象 市町村生涯学習・社会教育関係者、市町村人権啓発担当者、企業内人権啓発担当者、教職員 他

参加者数 28名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 10:00～16:00

場 所 長岡市立劇場

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月6日（月） 10:00～16:00	人権教育 参加体験型学習プログラム～その体験と実践～	桜井・法貴グローバル教育研究所代表 桜井 高志 氏
	内容・方法	人権教育についての基本的な理解や様々な人権課題の把握について、各種のアクティビティの体験およびその解説、ふりかえりを通して、研修した。 「（人権教育に関わる）名札づくり」「四つの角」などを体験した。	

成 果 ・ 「はじめて参加体験型のプログラムを受講し、非常に参考になった」等、受講者の評価は高かった。

課 題 ・ 教育関係者だけでなく、企業等の人権啓発担当者の参加を促進すること。

問合せ先 新潟県教育庁生涯学習推進課成人教育係
TEL025-280-5617 FAX025-284-9396

平成18年度小・中・特別支援学校PTA指導者研修会

趣 旨 心身ともに健全な児童生徒の育成に向けて、PTA活動に関する研修を行い、PTA活動の活性化を図る指導者としての資質向上をめざす。

実施主体 主催：新潟県教育委員会（主管：上越教育事務所） 共催：上越3市教育委員会

参加対象 小学校、中学校、特別支援学校PTAの役員及び教職員会員

参加者数 141人

回 数 1 回 **日 数** 1 日 **時 間** 3 時間

場 所 上越市社会教育館（上越市西本町4丁目17-5）

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月15日(木) 3時間	「主体的に学び行動するPTAをめざして」 ～共に家庭の教育力を高めるPTA～	講師 外ノ池 一 様
	開会式 趣旨説明 ※ 趣旨説明は、生涯学習推進課担当副参事から行ってもらい、講話並びに分科会の方向付けとした。 講 話 演題「家庭内の役割分担と連繫」 講師 外ノ池 一 様 ※ 親子のかかわりについて「絆」「強さと厳しさ」「やさしさと温かさ」などをキーワードに事例を交えた話を行い、子育てには特効薬はなく、日々の親子のかかわりが大切であることを説いた講話だった。 分科会 第1分科会「父親の家庭教育参加」（7グループ） 第2分科会「本好きの子どもを育てる親子読書」（4グループ） 第3分科会「親子で整える生活のリズム」（6グループ） ※ 参加者の希望をもとにテーマごとの分科会に別れ、少人数グループ討議を行った。 閉 会 （分科会ごと）		

成 果

- 「家庭内の役割分担と連繫」と題した外ノ池先生の講話は、親子のかかわりについてたくさんの具体的な事例をもとに分かりやすく共感のもてる内容であり、参加した保護者が親として我が子とのかかわりを改めてふり返る機会となった。
- 「父親の家庭参加」「親子読書」「生活リズム」と今日的な課題をテーマとした分科会設定は、今、児童生徒が置かれている環境とその改善に向けた保護者の意識啓発の機会となった。また、少人数グループ討議は、日頃のPTA活動の取組をもとにした熱心な意見交換の機会となり、参加者の多くに満足感を与えた。

課 題

- 研修会への参加がPTA役員であることから、研修会の成果を広くPTAの一般会員に広めていくための各PTAにおける学習会の開催などの働きかけも必要である。
- 本研修会が、毎年、子育て真っ盛りの保護者150人ほどが確実に集まる機会であることを考えると、家庭教育・青少年教育・安心安全なまちづくり等の学習機会として意義あるものであり、小・中学生の保護者に対しての家庭教育の機会として位置付けるなど、その意義や運営等の見直しを含め、取組を検討していく。

問合せ先 上越教育事務所社会教育課 〒943-8551 上越市本城町5-6 電話：025-526-9377
FAX：025-523-7542 E-mail：t5010103@mail.pref.niigata.jp

「読書ボランティアリーダー養成講座」

趣 旨 子どもの読書活動を推進するために、子どもへの読み聞かせを中心としたボランティアリーダーを養成し、地域における指導者の育成及びネットワークの構築を図る。

実施主体 新潟県教育委員会 (主管：上越教育事務所)

参加対象 ・読み聞かせ関係サークルや団体の会員及び読み聞かせボランティア活動に意欲、関心のある人（経験の有無は問わない）
・幼稚園、保育園、小中特別支援学校の職員及び保護者 ・各市図書館関係職員

参加者数 20名程度

回 数 5回 **日 数** 5日間 **時 間** 各回2時間

場 所 上越市立高田図書館

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	9月13日(水) 10:15~12:15	読み聞かせとは	中村忠雄様 (読み語りジャックの会代表)
	内容等	【開講式】 開講のあいさつ (大倉教育事務所長) 講師紹介 (中島社会教育課長) 読書ボランティアに期待されること (小田県生涯学習推進課副参事) 【講義①】 「読み語りと子どもの感性」・子どもは喜びを感じる時にこそ伸びやかに育つ・物語体験の豊かさと日常生活の豊かさ・最高の読み手とボランティア	
2	9月20日(水) 10:15~12:15	声だし 読み	中村忠雄様 (読み語りジャックの会代表)
	内容	【演習①】 ・声出しと口の体操・文の流れと強調・場面にふさわしい読み方	
3	9月27日(水) 10:15~12:15	読み聞かせ技術	中村忠雄様 (読み語りジャックの会代表)
	内容	【演習②】 ・本の持ち方、開き方・本の選び方・本の読み語り (実践)	
4	10月4日(水) 10:15~12:15	紙芝居の技術	中村忠雄様 (読み語りジャックの会代表)
	内容	【演習③】 ・紙芝居の特質・抜き技術・紙芝居の読み語り	
5	10月13日(金) 10:15~12:15	演習のまとめ	中村忠雄様 (読み語りジャックの会代表)
	内容	【講義②】 「演習を終えて」・お話し会の設定について・演習を終えて 【閉校式】 閉講のあいさつ (中島社会教育課長)	

*受講希望者多数につき、上記の他に第2講座を設け、毎週木曜日に教育事務所を会場に実施した。

成 果 ・ 上越地域では、子どもの読書活動を支援するボランティアを目指す人が多いということ、公立図書館等を核とした地域的な読書活動の要望が高まってきていることが確認できた。このような地域ニーズに対して、学習機会や活躍の場を提供することがますます求められてきている。

課 題 ・ 読書ボランティア活動をこれから始めようとする受講者には大変わかりやすい基礎講座であったが、「リーダー養成」という高いレベルを期待した受講者には物足りない内容であった。基礎講座とレベルアップの講座を分けるなど、よりニーズに合わせた講座を工夫する必要がある。

問合せ先 新潟県教育庁上越教育事務所社会教育課

〒943-8551 上越市本城町5-6

TEL 025-526-9377 FAX 025-523-7542

E-mail T5010103@mail.pref.niigata.jp

学習コーチ養成セミナー

趣 旨 学校教育・社会教育等の青少年教育分野の学習活動における指導者・サポーター等を目指す社会人を対象にセミナーを実施し、社会人の経験・知識・技能を教育資源に活用する環境整備を図ると共に上越地域の学習環境の充実に資する。

実施主体 主催：新潟県教育庁上越教育事務所 共催：上越管内3市教育委員会
NPO法人上越地域学校教育支援センター、上越地区社会教育主事会

参加対象 青少年の学習活動の指導者・サポーターを目指す社会人

参加者数 17名

回 数 5回 **日 数** 5日間 **時 間** 各回2時間

場 所 上越教育事務所会議室 上越市市民プラザ(第2回のみ)

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	10月19日(木) 14:00~16:00	専門家の心や思いを伝える意義	上越教育事務所社会教育課 課長 中島 憲一
	内容	【開講式】 開講のあいさつ(大倉教育事務所長) 【講話】 「学習コーチ養成の意義」 【演習】 「伝えたいことを明確化・焦点化する」	
2	10月27日(金) 15:00~17:00	新しい教育法としてのコーチング	(株)コーチ・トゥエンティワン ディレクター 佐藤 陽子
	内容	【講義と演習】 効果的に思いを伝えるコミュニケーション法	
3	11月2日(木) 14:00~16:00	難しいことを易しく伝える話術	上越教育事務所社会教育課 副参事 國元 清光
	内容	【講話と演習】 発達段階への配慮、専門用語の扱い	
4	11月9日(木) 14:00~16:00	興味を惹き付ける活動の仕組み方	上越教育事務所社会教育課 副参事 渡邊 寿敏
	内容	【講話と演習】 体験活動、学習形態、学習方法	
5	11月16日(木) 14:00~16:00	分かりやすく伝える技術	上越教育事務所社会教育課 副参事 角山 稔
	内容	【講話と演習】 視聴覚機器、映像・音声等の活用 【閉講式】 閉講のあいさつ(中島社会教育課長)	

成 果

- 外部(民間)指導者を受け入れる学校や講座の側から指導力の向上を発想してセミナーを開催したが、青少年を地域の教育力で育てていきたいという思いをもった社会人のニーズがあり、指導者の側からも求められていることが明らかになった。地域の人々は、青少年にかかわりたい・育てたいという思いがあるが、どのように接したらいいかが分からないと感じている。「地域で子どもを育てる」という掛け声だけでは前進しない状況にあることが明らかになった。第2回は、共催側の経費で民間企業の講師を要請した。参加した顧客の満足度を確実に確保するための意識、手法のレベルが高いことを実感した。指導者の意識に対する大きな刺激となった。

課 題

- 求められる指導力を5回の講座に割り振って開催したが、学習内容に対して学習時間が足りず、消化不良の面があった。学習内容の焦点化と学習時間の確保の面から改善が必要である。また、学習ボランティア等活躍の場に関する情報が求められた。指導力の向上と活躍の場の充実を併せて図っていくことを検討していく必要がある。

問合せ先 新潟県教育庁上越教育事務所社会教育課
〒943-8551 上越市本城町5-6 TEL 025-526-9377 FAX 025-523-7542
E-mail T5010103@mail.pref.niigata.jp

「父親の家庭教育参加を考える集い」

趣 旨 日頃家庭教育に関する学習機会の少ない父親を対象に、家庭教育における父親の役割について学習する機会を提供する。

実施主体 新潟県地域家庭教育推進協議会 新潟県教育委員会 (主管：上越教育事務所)

参加対象 上越管内の幼児～小学生の子をもつ父親とその家族

参加者数 6家族24名

回 数 2回 **日 数** 2日間 **時 間** 各6時間

場 所 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立妙高青少年自然の家

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月25日(日) 10:00～16:00	父親だからこそできる家庭教育とは何か？みんなで考える。～父親から子への伝授～	宮田和幸(元大手町小PTA会長) 自然の家職員
	内容・方法	【講話】「父親だからできること」 講師：宮田和幸さん(元大手町小学校PTA会長) 【グループ協議】「父親だからこそ伝授できることをさがしてみよう」をテーマに、講話の内容を参考にしながらお互いに日頃感じていることや思いを話し合う。 【実技】「アウトドアから始めよう。— 火をつける・パン生地をこねる・焼く —」協議を活かし、まずは自分たちの考えを実際にやってみる。その一つとして、家族みんなで共通に体験できて、しかも父親が表に出ることが出来る「野外料理」を取り上げて実践する。	
2	7月2日(日) 10:00～16:00	子どもと一緒に遊ぶ楽しさ、一緒に育つ喜びを思い出す。～子育ては親育てを実感～	なし
	内容・方法	【実習】親子活動「親子でパン作り」— 父親が家族のリーダーとなってパンを焼く — (伝授内容 ①パン生地作り ②火起し、火の管理 ③ピザやパンの焼き方) 1回目の実技を活かして、2回目は家族単位で父親が母親や子どもに野外のパン作りを教えながら、パンを焼いて食べる。小麦粉を練って生地作りをするという作業を取り入れると、小さな子どもも喜んで参加できる料理となる。父親が家族のリーダーとしての姿を示すとともに、家族が一緒に1つの作業を通じて絆を深めるといふねらいがある。	

成 果

- ・ 「父親はこうあらねばならない」という座学で終わるのではなく、家族とふれ合う時間を確保し父親の出番をつくることにより、子どもや家族と過ごす楽しさや充実感を実感して子育てを見直す内容へと改善することができた。
- ・ 2日目の家族の会話の中に夏休みの計画が話題にのぼるなど、この講座を夏季休業前に実施することで、家族でふれあう機会の増加へ結びつけることができた。

課 題

- ・ 参加した父親や家族は、日頃から家庭教育への関心が高いと思われる。しかし、家庭教育への関心の低い父親、関心があっても参加しようとする決断力のない父親をいかに参加させるかが今後の課題である。
- ・ 父親の家庭教育参加を啓発するため、今事業の前に上越地区PTA指導者研修会の部会別協議に取り上げた。今後は、事業運営そのものに市P連との連携を図るなど、より具体的な連携を探っていくことも検討したい。

問合せ先 新潟県教育庁上越教育事務所社会教育課
〒943-8551 上越市本城町5-6 TEL 025-526-9377 FAX 025-523-7542
E-mail T5010103@mail.pref.niigata.jp

学習プログラム学び合い研修会

趣 旨 管内各市の実態や行政課題に基づいて実施されている生涯学習・社会教育・生涯スポーツ事業を各市の行政担当者が持ち寄り、お互いに学び合うことを通して、学習プログラムへの理解を図り、各市の学習活動の充実並びに上越地域の生涯学習・社会教育・生涯スポーツ環境の充実に資する。

実施主体 主催：上越教育事務所 共催：上越3市教育委員会

参加対象 上越管内3市生涯学習・生涯スポーツ担当職員

参加者数 26人（第1回研修会）

回数 12回 **日数** 12日 **時間** 66時間

場所 上越教育事務所303会議室、3市事業実施会場

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
事業紹介	4月27日（木） 3時間	事業を紹介し合い、事業の企画立案を学び合う	
	内容・方法	事業紹介 ※ 事前に提出された15件の事業紹介シートの中から各市担当者が事業プレゼンテーションにより6事業の内容等を紹介した。 ※ プレゼン事業名：謙信KIDSスクールプロジェクト、少年・一般スポーツ教室委託事業（上越市） 子どもサミット2006、いといがわスポーツレクリエーション祭（糸魚川市） 妙高フレンドキャンプ、スキーのまち妙高ジュニア育成事業（妙高市） 事業学び合い ※ 担当者が紹介した事業プレゼンテーションに対して、参加者が質疑応答を行い、理解を深めた。	
事業参観	期日・時間	テーマ	講師等
	事業実施日 (参観日数)	事業を参観し、よさを学ぶ	
内容・方法	事業参観 ※ プレゼンされた事業から参観呼びかけ事業を提示し、参観を希望する事業を事業担当者の了解のもとで事業参観を行った。 ※ 事業参観後、メール等で事業参観の感想等を担当者に送付した。 ※ 参観呼びかけ事業名：謙信KIDSスクールプロジェクト(上越市)、子どもサミット2006(糸魚川市) 妙高フレンドキャンプ(妙高)		

成 果

- 作成された事業紹介シートや事業プレゼンテーションから3市で取り組んでいる事業の背景や特色、ねらいなどをお互いに理解し合ったり、事業実施上の課題などを話し合ったりする機会となった。合わせて、各担当者にとっても事業運営上に活用できる内容を多く含んだものとなった。
- 事業運営等に支障の少ない電子メールによる事業参観後の感想送付を行った。その結果、感想メールに対して担当者から電話やメールで返答があるなど、双方向のかかわり合いが見られ、意見交換を通して今後の事業改善に結びつく状況が生まれてきた。

課 題

- 事業の紹介を行った第1回研修会には3市から多くの担当者の参加があったが、紹介された事業の参観については、担当者自身の業務の都合などもあり、3市の担当者同士による参観はほとんどされなかった状況がある。参加への働きかけ、事前の日程調整など工夫改善を図っていく必要がある。

問合せ先 上越教育事務所社会教育課 〒943-8551 上越市本城町5-6 電話025-526-9377
FAX：025-523-7542 E-mail：t5010103@mail.pref.niigata.jp

おとうさんのための子育て講座 (父親の家庭教育参加出前講座)

趣 旨 日頃、家庭教育に関する学習機会の少ない父親を対象に家庭教育学級を開設し、家庭における父親の重要性について理解と関心を深め、家庭教育への参加を啓発する。

実施主体 新潟県地域家庭教育推進協議会、見附市中央公民館

参加対象 見附市の子育て世代の父親

参加者数 21名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 2時間

場 所 サンアロー株式会社新潟工場（見附市）

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月20日(月) 17:00～19:00	おとうさんのための子育て講座	新潟青陵大学大学院 教授 碓井真史
	内 容 ・ 方 法	○講義「おとうさんのための子育て講座」 ○質疑応答	

成 果

- 参加者のアンケートから「これからの子育ての参考にできるよい話だと感じました。」など、受講者からは好評であり、父親としての子育てを学ぶ良い機会となった。また、内容も受講者にあわせてアレンジしていて、2時間を長く感じなかったことや質疑応答もうち解けた雰囲気の中で会話が進んだことなど、大変意義ある講座となった。

課 題

- 意義ある出前講座なので、いかにPRして参加者を増やしていくかが課題である。

問合せ先 新潟県教育庁中越教育事務所社会教育課（担当 本田俊夫）
TEL：0258-38-2652

PTA指導者研修会

趣 旨 心身ともに健全な児童生徒を育成するPTA活動の活性化を図るため、PTA活動に関する研修を行い、指導者としての資質の向上を目指す。

実施主体 新潟県教育委員会

参加対象 PTA役員等

参加者数 292名

回 数 2回 **日 数** 2日 **時 間** 11時間20分

場 所 小千谷市民会館、刈羽村ラピカ

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月14日(水) 10:00～15:40	主体的に学び、行動するPTAを目指して	長岡市立与板小学校 校長 岩田忠満
	内 容 ・ 方 法	○講義「学校と連携し、主体的に学び、行動するPTAを目指して」 ○事例発表「特色あるPTA、顔の見えるPTA」 ・長岡市立黒条小学校PTA ・南魚沼市立大和中学校PTA ○研究協議「会員による課題協議」（6分散会22班）	
回	期日・時間	テーマ	講師等
2	7月7日(金) 10:00～15:40	主体的に学び、行動するPTAを目指して	長岡市立与板小学校 校長 岩田忠満
		○講義「学校と連携し、主体的に学び、行動するPTAを目指して」 ○事例発表「特色あるPTA、顔の見えるPTA」 ・長岡市立島田小学校PTA ・三条市立第二中学校PTA ○研究協議「会員による課題協議」（6分散会30班）	

成 果

- 各学校のPTA会長・副会長、役員が集まり、PTA活動の活性化を図るためワークショップ形式の討議を行う主体的な研修となっており、自校PTAの課題解決に役立ち、指導者としての意識の高揚につながっている。
また、ほとんどの学校から参加があり、各学校間のPTA活動について貴重な情報交換の場ともなっている。

課 題

- 今後、市P連や県P連との事業の摺り合わせを行い、研修が類似した内容にならないように工夫していく必要がある。

問合せ先 新潟県教育庁中越教育事務所社会教育課（担当 太田正純）
TEL：0258-38-2652

社会同和教育市町村巡回研修会

趣 旨 社会教育の現代的課題である社会同和教育に関する研修を地域の実態に即しながら実施し、社会教育施設利用者等への人権・同和問題の啓発を行う。

実施主体 新潟県教育委員会、十日町市教育委員会

参加対象 十日町市・津南町の社会教育施設利用者、社会教育行政職員、社会教育団体関係者、PTA・学校教育関係者

参加者数 83名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 5時間30分

場 所 十日町市民会館

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月21日(水) 10:00～15:30	人権・同和問題の啓発	部落解放同盟新潟県連合会 執行委員 脇本正評
	内容・方法	○説明「社会同和教育にかかわる県所管事項」 ○講義「今、わたしとあなたのために」 ○グループ別研修 A：同和教育啓発映画『おーい』視聴と協議 B：人権ワークショップ「権利の熱気球」他 C：同和問題を中学校教科書で学ぶ	

成 果 ・ 参加者が社会同和教育への理解を深め、人権感覚等を高める機会にすることができた。社会教育と学校教育の関係者が一緒に研修を行ったので、お互いの取組状況を交流し合うことができた。

課 題 ・ 管内市町村主催の社会同和教育研修会は極めて少ない。この解消のためにも、また、社会教育関係者の意識を一層高めるためにも、実施回数を増やしたり社会教育関係者の参加数を増やしたりする等の取組が必要である。

問合せ先 新潟県教育庁中越教育事務所社会教育課（担当 池田正義）
TEL：0258-38-2652

平成18年度家庭教育支援総合推進事業「家庭教育出前講座」

趣 旨 企業・教育機関への出前講座を開催し、「研修の一環として学習の場」を設けることにより、子育てにおける親の役割の重要性、特に父親の家庭教育への理解と関心を深める

実施主体 新潟県地域家庭教育推進協議会
新潟県教育委員会（下越教育事務所） 新発田市教育委員会

参加対象 未就学児を持つ親

参加者数 13名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 2時間

場 所 新発田市生涯学習センター

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	7月22日(土)	家庭教育の重要性 「今が大切！ 子どものココロとカラダ」	子どもの家 園長 高橋千恵子
1	内容 ○内容 講演会 ・ 子どもは地域の宝物そして父親と母親の役割について 方法 ○方法 講義型		

成 果 ○参加者のアンケートより

- ・ 「思いつきり遊ばせることの大切さ」「抱きしめることの大切さ」「実際に色々体験させることの重要性」等について再認識することができた。
- 講師の「子どもの気持ちの中に常に在る姿勢」に感動した。
- ・ 参加者全員が、実践後に再度講演を聴きたいという意見であった。
- 若い母親には、どのような点に注意をしながら子育てをすればよいのか具体的なことが理解できた。

課 題 ・ 教育委員会と共催で実施したが、参加者の募集方法等は教育委員会にすべてお願いをしていたため、参加者数が少なかったようである。広報の仕方や学校、幼稚園・保育園への協力要請が必要である。

問合せ先 下越教育事務所社会教育課(担当：齋藤 憲)

TEL：025-231-8361

平成18年度家庭教育支援総合推進事業「家庭教育出前講座」

趣 旨 企業・教育機関への出前講座を開催し、「研修の一環として学習の場」を設けることにより、子育てにおける親の役割の重要性、特に父親の家庭教育への理解と関心を深める

実施主体 新潟県地域家庭教育推進協議会
新潟県教育委員会（下越教育事務所）胎内市教育委員会

参加対象 小学校高学年及び中学校保護者

参加者数 35名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 2時間

場 所 胎内市産業文化会館

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月22日(水)	家庭教育の重要性 「思春期の子どもと 上手につきあう」	新潟市教育委員会学校指導課 S S Tチーフアドバイザー 石川 志郎
	内 容 ・ 方 法	○内容 講演会 中学生の最近の事例や講師の様々な経験を中心とした講演 ○方法 講義型	

成 果 ○参加者のアンケート集計より

- ・ 「親の三機能」「五つの欲求と思春期までの四つのポイント」「子育てのポイント」等、具体的な例で分かりやすかった。
- ・ 「子どもには子どもの世界があり、親としてはどこまで踏み込んでいいのか」等、子どもへの接し方がとても参考になった。

課 題 ・ 教室開催日を休日の前日や時間帯を夜としたが、男性の参加者が少なかった。家庭教育の充実を図るためには、行政、学校、PTA、地域の連携強化が課題である。

問合せ先 下越教育事務所社会教育課(担当：齋藤 憲)

TEL 025-231-8361

佐渡地区小・中・特別支援学校PTA指導者研修会

趣 旨 P T A活動の活性化を図るため、講演・講義やグループ討議等を通して指導者の資質・指導力の向上を目指す。

実施主体 主催 新潟県教育委員会、共催 佐渡市教育委員会

参加対象 佐渡地区小・中・特別支援学校P T A役員 教職員 行政職員等

参加者数 1 3 0名

回数 1回 **日数** 1日 **時間** 3時間40分

場所 トキのむら元気館

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	6月16日 3時間40分	主体的に学び行動するP T Aをめざして ～子どもの安全・安心確保とP T A活動～	新潟市教育委員会 指導主事 石川志郎
1	内容・方法	<p>○P T Aの概況説明 : 「子どもの安全・安心確保について、国や県の学校やP T Aへの指導概況説明の要旨 学校から各家庭に、不審者について注意喚起のお便りが頻繁に届く。もともっているのは国や県の指導である。どのような指導が学校に寄せられているか紹介する。(緊急対策6項目) P T Aについては、県が昨年発行したP T Aの運営と活動の手引き書を引用して説明する。(望ましい取組6項目) 最後に本日の研修会の課題について2つ(・未然防止にP T Aは何をすべきか ・地域の関係機関と連携をどのように図るか)を説明する。</p> <p>○講演の部: 「子どもを取り巻く環境とP T A活動の在り方」をテーマで講演 基調講演の要旨 新潟市内の学校で発生した生徒指導上の問題行動について、関係機関や地域との連携をもとに問題解決に当たった取組を紹介。ここ数年顕著な問題行動としては、いじめや不登校、暴力行為、性の逸脱行為などがある。子どもの取り巻く環境は親や大人の考える範疇を越える場合があり、このことをしっかり認識し連携して取り組まなければならない。</p> <p>○事例発表—1 「子どもの安全・安心を確保する畑野小学校の取組」 事例発表の要旨 「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」のモデル校として取り組まれている畑野小学校から事例発表していただく。地域を含めた安全教室、防犯訓練の実施、通学路安全マップ等の作成と周知、教育委員会、警察、消防署、P T Aが連携した防犯活動の取組など映像を活用して説明する。</p> <p>○事例発表—2 「佐渡管内における犯罪情報や防犯対策、不審者などの情報提供」 事例発表の要旨 佐渡市においても、不審者が出没していることについて、数値を示して説明する。素早い連携が未然防止に結びついたことを例にあげ、学校と家庭、警察が連携して取り組むことの重要性を訴える。</p> <p>○グループで協議会 協議事項 各学校、PTAが取り組んでいる安全・安心確保の取組について情報交換する。 ・犯罪の未然防止にP T Aはどのような取組が必要か ・不審者出没情報が寄せられ、緊急な場合のPTAはどのような対応が必要か ・子どもが自分の命を守ることができるにはPTAはどうすればよいか</p>	

成 果 ・ 全体を通して、初期の目的を達成した指導者研修会であった。特に協議会では喫緊な課題であったので、どの参加者も自校PTAの取組を紹介すると共に、他校の取組の説明を真剣に聞いていた。概況説明から講演、事例発表、グループ協議会と、安全・安心を確保する取組について、有効な情報がそれぞれ得られたのではないかと考える。

課 題 ・ 事例発表の指導時間、グループ協議の時間があまり取られておらず、取組の発表が中心となった。説明、指導・助言をもって、今後の活動指針と考えられるので、時間配分を配慮していくことで、更により内容となると考えられる。

問合せ先 下越教育事務所佐渡出張所 副参事 本間健治 0259-74-4205

魅力ある県立図書館づくり事業「県民公開講座」

趣 旨 県民に県立図書館を身近なものとして感じ、その利用価値について理解を深めてもらうため、県立図書館において、県民の関心が高い分野や地域の課題をテーマに講演会を開催し、県立図書館利用の端緒としていただく。

実施主体 新潟県立図書館

参加対象 新潟県民

参加者数 1回 150名 2回 140名 3回 213名

回数 3回 **日数** 3日 **時間** 各回1時間半

場 所 新潟県立図書館ホール

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	8月6日(日) 14:00~15:30	「酒づくりのふしぎ」	日本醸造学会会長 秋山裕一
	内容・方法	○県立図書館職員により、関連資料リストの配布などによる資料紹介や図書館の利用案内(レファレンスの紹介)など、図書館PRを行った。 ○講演 演題 「酒づくりのふしぎ」	
2	11月25日(土) 14:00~15:30	「安吾と坂口家の人々」	敬和学園大学教授 若月忠信
	内容・方法	○講演 演題 「安吾と坂口家の人々」 ○県立図書館職員により、講師著作や関連資料リストの配布などによる資料紹介や図書館の利用案内(レファレンスの紹介)など、図書館PRを行った。	
3	2月8日(木) 14:00~15:30	「免疫力アップ術」	安保徹
	内容・方法	○講演 演題 「免疫力アップ術」 ○県立図書館職員により、講師著作や関連資料リストの配布などによる資料紹介や図書館の利用案内(レファレンスの紹介)など、図書館PRを行った。(5分程度)	

成 果

- アンケートによれば、「初めて来館した」が1回：29.8%、2回：17.5%であった。また「図書館をこれからも利用したい」は1回：76.2%、2回：78.8%であることから、参加者の今後の図書館利用が期待される。また「今後も開催されることを希望する」という意見が多く寄せられたことから、ある程度の成果は得られたと思われる。

課 題

- マスコミに採り上げられた場合の効果が大きいことから、マスコミへの積極的なPRが必要と感じる。

問合せ先 新潟県立図書館 企画協力課(担当：上村)
TEL：025-284-6178

魅力ある県立図書館づくり事業 秋の読書週間「講演会」

趣 旨 秋の読書週間にちなみ、講演会を開催し、県民の生涯学習に資するとともに、当館への理解と利用の一層の促進を図る。

実施主体 新潟県立図書館

参加対象 新潟県民

参加者数 206名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 1時間半

場 所 新潟県立図書館ホール

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月9日(木) 14:00~15:30	秋の読書週間講演会「見る、読む、書く」	作家 藤沢周
	内容・方法	○講演 演題 「見る、読む、書く」	

成 果 ・ アンケートによれば、「初めて来館した」が21.9%であり、「図書館をこれからも利用したい」は87.5%である。講演内容に対し、「満足」が50.8%、「まあ満足」が26.6%であること、また「今後も開催されることを希望する」という意見が多く寄せられたことから、ある程度の成果は得られたと考える。

課 題 ・ 講演の成功は、講師の知名度と講演内容によるところが大きいことから、良い講師に来てもらうことが今後の課題である。

問合せ先 新潟県立図書館 企画協力課（担当：上村）
TEL：025-284-6178

魅力ある県立図書館づくり事業 所蔵資料紹介講座

「図書館の美術品－県立図書館所蔵美術品紹介講座」

趣 旨 普段一般県民の目に触れがたい「県立図書館所蔵資料（美術品）」の紹介をし、またその作家と関連する資料を紹介することにより、県民の生涯学習に資するとともに、当館への理解と利用の一層の促進を図る。

実施主体 新潟県立図書館

参加対象 新潟県民

参加者数 15名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 1時間半

場 所 新潟県立図書館ホール

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	12月3日（日） 14:00～15:30	「図書館の美術品－県立図書館所蔵美術品紹介講座」	新潟県立文書館副館長 本井晴信
	内容・方法	○講演 ○館内美術品見学ツアー ホールの「祈願」（北村四海）、館長室の「対句」（会津八一）・「五月風景」（佐藤哲三）ほかの美術品の見学と解説を行った。 ○会津八一等、所蔵美術品の作者の関連資料リストを配布した。	

成 果 ・ あえて定員を少人数にしたためか、参加者の満足度の高い講座だった。講座の継続を希望する意見が多く、ある程度の成果は得られたと考える。

課 題 ・ 紹介する資料の調査など、十分な準備と、資料に習熟した講師の確保が必要。

問合せ先 新潟県立図書館 企画協力課（担当：上村）
TEL：025-284-6178

新潟県図書館協会図書館再発見事業「講演会」

趣 旨 県内における図書館事業の進歩発展と本県文化の振興への寄与を目的とした図書館再発見事業の一環として、講演会を実施する。児童サービスは、図書館利用の最初の入り口であり、新潟県図書館協会加盟館からは、児童サービス関係の講演会の要望が多い。このことから、子どもに図書館利用を促す立場にある、図書館・学校・保護者・ボランティアなどを対象に、「子どもと本をつなぐ」をテーマに講演会を行う。

実施主体 新潟県図書館協会

参加対象 新潟県図書館協会加盟館職員及び新潟県民

参加者数 252名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 1時間半

場 所 新潟県民会館小ホール

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	9月25日（月） 14:00～15:30	「物語のもつ力」	青山学院女子短期大学教授 清水真砂子
	内容・方法	○講演	

成 果 ・ アンケートによれば、「満足」が75.9%、「まあ満足」が19.8%、「不満」0%という、参加者の満足度が非常に高い講演会だった。講演会の継続を希望する意見が多く、ある程度の成果は得られたと考える。

課 題 ・ 講演の成功は、講師の知名度と講演内容によるところが大きいことから、良い講師に来てもらうことが今後の課題である。

問合せ先 新潟県図書館協会
事務局 新潟県立図書館 企画協力課（担当：上村）
TEL：025-284-6178

生涯学習職員研修「基礎研修会」

趣 旨 生涯学習・社会教育関係職員等の資質向上を図るために必要な基礎的・基本的事項について研修し、生涯学習の推進を図る。

実施主体 新潟県立生涯学習推進センター

参加対象 市町村生涯学習・社会教育関係職員等

参加者数 延べ 61名

回数 2回 **日 数** 3日 **時 間** 14時間半

場 所 新潟県立生涯学習推進センター大研修室

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	5月30日(火)～ 31日(水) 10:00～16:00	生涯学習推進計画・社会教育計画の立案 学習プログラムの立案	常磐大学教授 中村正之 燕市教育委員会主幹 真柄正幸
	内容・ 方法	○ 30日午前は、資料をもとに、「生涯学習と社会教育」の講義を行った。午後は、5グループに分かれワークショップを行い、生涯学習推進計画の立案(基本構想・基本計画)に取り組んだ。 ○ 31日午前は、資料をもとに、講義を行った。午後は、5グループに分かれ、資料・ビデオをもとに、各グループで学習プログラム立案を行った。	
2	11月28日(火) 10:30～16:00	市町村合併を生かした先進 的実践事例から学ぶ	講師 生涯学習ゆめ・みらい研究所長 工藤日出夫 事例発表者 佐渡市教育委員会生涯学習課社会教育主事 坂井 一美 胎内市教育委員会生涯学習課文化・文化財係主任 伊東 崇
	内容・ 方法	○ 午前の研修1講義では、全国の事例や講師の様々な経験をもとにした実践的な講義を行った。 ○ 午後の研修2事例発表・演習では、2事例の発表を聞き、工藤講師の司会・進行で発表者への質疑応答を行った。また、参加者のそれぞれの悩みや市町村での課題等を出し合い・意見交換を行った。最後は講師による全体のまとめを行った。	

成 果

- 生涯学習・社会教育関係職員等の資質向上を図るための基礎的・基本的事項についての研修では、講義と演習を組み合わせた手立てが有効であることが、アンケートからうかがえる。
- 「少人数での話し合いができ、互いの意見を活発に出し合うことができた。また、互いの悩みや市町村の課題を出し合い、それに対する指導者からの適切なアドバイスを得ることができた。」等の感想が多く寄せられた。生涯学習・社会教育関係職員としての資質向上を図るためには有効であったと考えられる。

課 題

- 今回は、市町村や前年度参加者のアンケートをもとに内容を構成したが、県全体の現状をふまえる中で課題を一層焦点化して、内容を構成することが求められる。
- 広報活動(効果的なチラシづくりや配布の工夫等)をより積極的に行い、参加者増を図る。

問合せ先 新潟県立生涯学習推進センター学習振興課(担当 若月信久)
TEL: 025-284-6110

生涯学習実践研修

「地域・家庭・学校・行政を結ぶ人づくり・まちづくり研修会」

趣 旨 地域の特性を生かし、地域・家庭・学校・行政を結んだ生涯学習による人づくり・地域づくりを進める仕組みづくり等に関する実践的な研修を通して、企画力・運営力の向上を図る。

実施主体 新潟県立生涯学習推進センター
参加対象 市町村生涯学習・社会教育関係職員、小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員、青少年教育施設・博物館・図書館等職員、PTA役員、及び青少年団体のリーダー等

参加者数 延べ 178名

回数 3回 **日数** 4日 **時間** 20時間

場所 新潟県立生涯学習推進センター大研修室

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月15日(木) 10:00～16:00	生涯学習による人づくり・まちづくりを進める仕組みづくり	えにし屋主宰 清水義晴 (助手 えにし屋 清水隆太郎)
	内容・方法	<p>○ 午前は、パワーポイント(資料)を使用して、3事例(大潟町、札幌市白石区、旧加治川村の取組)をもとに「生涯学習による人づくり・まちづくりを進める仕組みづくりを考える」と題しての講義を行った。</p> <p>○ 午後は、受講者全員が「私の夢」について発表し、その後、3事例(Lの会、上越城北中学校、県立月ヶ岡養護学校)を取り上げ、それぞれの課題の洗い出し、解決のために必要なこと等、ワークショップを実施した。</p>	
2	8月7日(月)～ 8月8日(火) 10:00～16:00	学校と地域の連携・融合による教育力向上のプランニング	講師 岐阜県立羽島北高等学校教諭 浦崎 太郎
	内容・方法	<p>○ 7日午前の研修1講義では、「子どもの未来は大人のチームプレーから」と題して、資料及びパワーポイントを使用して講義、講義を受けてのグループワーク(感想・意見交換等)とグループ代表による発表を行った。</p> <p>○ 7日午後及び8日の研修2演習では、「学校と地域との連携・融合による教育力向上のプログラムづくり①②」課題の把握・分析と学習展開計画の作成・プログラムチェックとりデザインとして、各自の課題によるグループ編成、ワークショップ(各グループのテーマ決め、そのテーマの発表、課題解決のための計画づくり)を実施した。その後、各グループの発表を行った。</p>	
3	11月16日(木) 10:00～16:00	県内の様々な取組を知り、これからの方向をつかむ	講師 えにし屋 清水隆太郎 事例発表者 かみえちご山里ファン倶楽部 中川 幹太 赤城コマランド 山川 成雄 せいろう共育ひろば「みらいのたね」 小林八重子 (株)博進堂 居城 葛明
	内容・方法	<p>○ 午前は、資料をもとに、パワーポイントを使用したりインタビュー形式で行ったりと工夫した事例発表を実施した。</p> <p>○ 午後は、各自の課題によるグループ編成、ワークショップ(それぞれの課題を構造化し、グループの取組方針を決める)を実施した。その後、各グループの取り組みの発表と各自の感想発表を実施した。</p>	

成 果 ・ 生涯学習による人づくり・地域づくりを進めるための企画力・運営力の向上を図るには、講義と演習を組み合わせた手立てや事例発表が有効であることがアンケートからうかがえる。

課 題 ・ 受講者の今後の活動把握に努める。そのため、ネットワーク用名簿を大いに活用し、情報交換を密に実施する。
 ・ 広報活動(効果的なチラシづくりや配布の工夫等)をより積極的に行い、参加者増を図る。

問合せ先 新潟県立生涯学習推進センター学習振興課(担当 若月信久)

TEL: 025-284-6110

生涯学習職員研修「課長・係長級研修会」

「2007年問題を見すえた将来戦略

～生涯学習から生涯活躍へ～」

趣 旨 生涯学習推進の再構築が求められる中で、課長・係長級等の業務遂行に必要な企画力・運営力を高める。

実施主体 新潟県立生涯学習推進センター

参加対象 市町村生涯学習・社会教育関係課長・係長、公民館長、NPO関係者 等

参加者数 110名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 2時間

場 所 新潟県立生涯学習推進センターホール

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	10月23日(月) 10:00～12:00	「2007年問題を見すえた将来戦略」	宇都宮大学生涯学習教育研究センター 助教授 佐々木英和
	内 容 ・ 方 法	○ 「生涯学習から生涯活躍へ」と題して、資料及びホワイトボードを使用して、全国のいくつかの取組事例をあげ、オンリーワンの政策の必要性やツーウェーズ(自分が何か情報を発信したら、相手からも情報をもらう関係)による様々な活動への参画の重要性について講義を行った。 ○ 講義内容の実践化として、現状分析—目標設定—方法選択等を参加者全員が2人組になり、ポストイットを使用してのミニワークショップを行った。	

成 果

- ・ 「今回の佐々木講師の研修内容は、企画・運営を考える上で有意義であった。特に実践的な研修はありがたい。」等の参加者の感想から、課長・係長級等の業務遂行に必要な企画力・運営力を高める研修として有意義であったと考えられる。また、県内市町村では、この研修会を大切な職員研修と位置付けて、参加していることがうかがえる。

- ・ 一般の方も含め大勢の参加(110名内一般5名)を得ることができたのは、現代的課題に対応した内容であり、県内市町村にとっても関心のある内容であったからだと考える。

課 題

- ・ 「今後の大切な問題(2007年問題)となるので、繰り返し開催してもらいたい。」等の感想からも分かるように、県内各市町村の生涯学習・社会教育行政関係者に対して、今回のテーマに対応する研修を県内の実践事例を交えたりしながら今後も継続して提供していく必要がある。
- ・ 研修後の各市町村の取組把握や情報連携が必要である。

問合せ先 新潟県立生涯学習推進センター学習振興課(担当 若月信久)
TEL: 025-284-6110

ボランティア活動推進研修会

「自分探しの旅の時代へ ～中高生のボランティア活動の推進～」

趣 旨 県内外のボランティア活動の実践事例を基に、地域におけるボランティア活動推進のための組織や活動のあり方を考え、今後の事業や活動の企画力・運営力の向上を図る。

実施主体 新潟県立生涯学習推進センター

参加対象 市町村生涯学習・社会教育関係職員、青少年教育施設職員、学校職員、ボランティア活動関連NPO法人職員等

参加者数 23名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 4時間30分

場 所 新潟県立生涯学習推進センター 大研修室

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	7月7日(金) 10:00～16:00	「自分探しの旅の時代へ～中高生のボランティア活動の推進～」	全国体験活動ボランティア活動総合推進センターコーディネーター 世田谷ボランティア協会理事長 興 柁 寛
	内容・方法	○ 「自分探しの旅の時代へ」と題して、ボランティア学習の定義・意義、ボランティア学習プログラムの考え方等について講義を行った。 ○ 講義内容の実践化として、参加者全員が4～5人組になり、ボランティア活動学習プログラムの作成演習・発表及び検討会を行った。	

成 果

- ・ 一流の講師を迎えられた事は、とても良かった。次年度以降も、レベルを落とさない様にしたい。
- ・ 受講者のアンケートからは「今後の取り組みに活用できる」としたものが殆どであったことから、プログラムの内容としては目的に適ったと考えられる。

課 題

- ・ 開催案内等の周知（広報？）について、対象の選定等に改善が求められるが、具体的な部分については、講座の内容にもよるため、時々の検討課題としたい。
- ・ 開催時期についても、学校関係者が参加し易い時期を検討する必要がある。

問合せ先 新潟県立生涯学習推進センター学習振興課(担当 大澤 隆)
TEL：025-284-6110

家庭教育支援事業の企画力向上セミナー

趣 旨 「社会全体で子どもをはぐくむ運動」の全県的展開を支援するため、先進的事例の研究協議や事業・学習プログラムの立案・展開・評価に関する理論と実践的な知識・技術の習得を通して、市町村職員等の家庭教育支援に関する企画力・運営力の向上を図る。

実施主体 新潟県立生涯学習推進センター

参加対象 市町村生涯学習・社会教育関係職員、地域家庭教育・子育て支援団体関係者

参加者数 延べ 237名

回 数 2回 **日 数** 4日 **時 間** 20時間

場 所 新潟県立生涯学習推進センター 大研修室

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月7日(水) ～6月8日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 地域で必要とされる家庭教育支援は何か考える 地域課題解決の方策を探る 	茨城大学助教授 長谷川 幸介 毎日の生活研究所代表 矢郷 恵子
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○「子育てを中心にした地域づくり」の講義の後で、県内の2事例の発表から家庭教育支援の現状と課題を把握した。その後、地域別グループに分かれて課題を考えた。 ○地域課題解決の会議を促進するためにファシリテーショングラフィックを学び、グループ毎に実践した。 	
2	8月31日(木) ～9月1日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 父親の家庭教育参加を促進する学習プログラムの立案 効果的な広報の仕方を考える 	NPO法人 男女共同参画おおた理事 牟田 静香
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○「人の集まる講義を企画する視点」「事業評価分析の視点」の講義の後、異種グループで父親の集まるプログラムを作成した。 ○「企画の意図を効果的に伝える広報のあり方」の講義で、広報チラシの善し悪しが参加者数を左右することを、資料をあげて分かりやすく説明。その後、父親の集まるプログラムの広報チラシをコンピュータで実際に作成し、お互いに評価した。 	

成 果

- ・ 受講者参加型の内容を多く取り入れたので、即実践に役立つことが期待される。
- ・ 成果物（ファシリテーショングラフィックによる地域課題解決策、父親の家庭教育参加プログラム広報チラシ）を当センターホームページに公表した。
- ・ 2日間連続の研修は、参加者の負担も大きい研修を深めることができた。

課 題

- ・ 第1回（延べ参加52名）と第2回（延べ参加185名）の受講者数から、より実践的な内容の研修が望まれていることが分かったので、アンケート結果を分析して要求度の高い研修内容を企画する。
- ・ 受講者のネットワークを機能させるために、受講後の支援の仕方をどのようにするか。

問合せ先 新潟県立生涯学習推進センター 学習振興課（担当 小熊幸子）
電話：025-284-6110

家庭教育支援総合推進事業

「家庭教育サポーターステップアップ研修会」

趣 旨 地域で活躍している家庭教育・子育て支援リーダーの資質向上を図るとともに、「社会全体で子どもをはぐくむ運動」の中核的人材として養成する。

実施主体 新潟県地域家庭教育推進協議会・新潟県教育委員会

参加対象 平成14・15・16・17年度に実施した家庭教育サポーター養成研修会を修了し、現在、家庭教育・子育て支援の活動をしている人で希望される方と市町村の行政担当職員。

参加者数 18名

回数 4回 **日数** 4日 **時間** 20時間

場所 長岡市立劇場 大会議室

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	9月26日5h 10:00～16:00	グループワークトレーニング	青山学院大学教授 樋田 大二郎
	内容 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介の意義と方法 ・体験から学ぶ ・対人関係の理解 	
2	10月10日5h 10:00～16:00	事例研修・情報交換	新座子育てネットワーク の会代表 坂本 純子
	内容 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・新座子育てネットワークの取組についての講義 ・参加者の活動レポートをもとにした情報交換(1) 	
3	10月24日5h 10:00～16:00	事例研修・情報交換	やまがた育児サークルラ ンド 有川 富二子
	内容 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・やまがた育児サークルラントの取組についての講義 ・参加者の活動レポートをもとにした情報交換(2) 	
4	12月1日5h 10:00～16:00	チームを効果的に運営する、コーチング型マネジ メントについて	マックス・ゼンPC代 表取締役 丸山 結香
	内容 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーに求められる「コーチ」としての資質 指示命令型リーダーから双方向・コーチング型リーダーを実技を通してめざす 	

成 果 ・ 具体的な活動や心理、行動等を学ぶことができた。また、人間関係づくりで参加者相互のネットワークづくりに役立つことができた。

課 題 ・ 出前を前提に考えると、参加対象者の状況から出席しやすい会場の設定。

問合せ先 新潟県立生涯学習推進センター学習振興課（担当 尾組 晃） TEL025-284-6110

「新潟県内の生涯学習取組事例集(平成18年度版)」

- 趣 旨** 様々な取組を紹介し、市町村・関係機関の事業推進を支援する。
- 実施主体** 新潟県立生涯学習推進センター
- 参加対象** 県内各市町村・県内各関係機関(団体)・各教育事務所・県教育庁生涯学習推進課等
- 掲載数** 延べ36団体(85事例)
- 掲載内容**
- ・ 県内各市町村が平成18年度に力を入れて取り組んできた事例
 - ・ 当生涯学習推進センターや県教育庁生涯学習推進課、各教育事務所、生涯学習関係機関(団体)等が平成18年度取り組んできた事例
- 体 裁** 1事例はA4で1頁 全体で約200頁
- 発行部数** 450部
- 配布先** 県内各市町村・県内各関係機関(団体)・各教育事務所・県教育庁生涯学習推進課等
- 作業日程**
- ・ 関係機関(団体)等への資料提供について依頼 12月中旬
※提出締め切り 平成19年1月22日(月)
 - ・ 校正(所内) 1月下旬
 - ・ 印刷製本依頼 2月上旬
 - ・ 事例集発送 3月上旬
- 成 果**
- ・ 各市町村、関係機関・団体の特色ある取組の情報を広範囲に収集し、事例集を作成することができた。
 - ・ 県内各市町村、関係機関・団体等の生涯学習の動向を大まかに把握することができた。
- 課 題**
- ・ 準備が遅れてしまい事例提出締め切りが、1月下旬にまでずれ込んだ。
 - ・ センターとしての県内の生涯学習推進への提言(提案)を入れる必要がある。
- 問合せ先** 新潟県立生涯学習推進センター学習振興課(担当 若月信久)
TEL: 025-284-6110

古文書解読講座

趣 旨 1) 古文書解読を通じて「文書等」の保存について、啓発（意義や方法等）・普及を図る。
2) 「文書等」を教材とし、新潟県や県内各地域の歴史に対する理解を深める学習機会を県民に提供する。

実施主体 新潟県立文書館

参加対象 一般県民

参加者数 107名

回 数 春季5回・秋季5回 **日 数** 春季5日・秋季5日 **時 間** 春季10時間・秋季10時間

場 所 [春季] 佐渡市両津総合体育館会議室 [秋季] 新潟県立文書館大研修室

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6/16・23・30・ 7/7・14（金） 13：30～15：30	古文書解読講座（初心者向け）	新潟県立文書館職員
	内容・ 方法	県内各地域に残された近世・近代文書をテキストとして用い、文字の解読・時代背景や関連事項の解説を行った。あわせて文書の扱い方や保存の意義や実際についても説明した。	
2	9/27・10/4・10 10/18・25(水) 13：30～15：30	古文書解読講座（初心者向け）	新潟県立文書館職員
	内容・ 方法	県内各地域に残された近世・近代文書をテキストとして用い、文字の解読・時代背景や関連事項の解説を行った。あわせて文書の扱い方や保存の意義や実際についても説明した。	

成 果 ・ 文字の解読のみならず、時代背景等の解説にも重点をおいたため、教材に対しても高い関心が寄せられ、有意義な講座内容であったことが受講者アンケートからも伺える。

課 題 ・ 開催日時・場所等の講座情報をよりわかりやすく提供する方法を検討する。

問合せ先 新潟県立文書館
TEL：025-284-6011

いきいき体験学

趣 旨

青少年指導者としての専門的な知識・技術を体験的に学び、地域や職場における指導者の養成及び資質の向上を図る。

実施主体

新潟県立青少年研修センター

参加対象

18歳以上の青年、青少年指導者等（高校生を除く）

参加者数

延べ 100名

回数

4回

日 数

各回 1泊2日

場 所

新潟県立青少年研修センター

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	5月13日（土）～ 5月14日（日）	パート1 レク編	小学館レクリエーションリーダーズクラブ 岩田 勉
	内容 ・方法	<ul style="list-style-type: none"> レクリエーションの演習をとおして、レクリエーションの基礎指導法や望ましい人間関係の在り方などを研修する。 体験学習を中心に、様々なレクリエーションを学習する。 	
2	7月8日（土）～ 7月9日（日）	パート2 野外活動編	にいがた貝友会 村山 均 県内各高等学校教諭 浅田 善弘・伊藤 雅一・笛木 勉 県内中学校教諭 小田 一郎
	内容 ・方法	<ul style="list-style-type: none"> 野外活動実習をとおして、その基礎指導法や楽しみ方を研修する。 フィールドワークを中心に、海浜活動や屋外活動を行う。 	
3	9月2日（土）～ 9月3日（日）	パート3 野外レク編	コミュニケーションラボラトリー代表 池田 雅彦
	内容 ・方法	<ul style="list-style-type: none"> 野外レクリエーションの演習をとおして、レクリエーションの基礎指導法や望ましい人間関係の在り方を研修する。 野外におけるレクリエーション・ナイトプログラム・野外プログラムなどを学習する。 	
4	11月18日（土）～ 11月19日（日）	パート4 福祉レク編	国際福祉医療カレッジ 佐々木 俊太郎 アカデミー・オブ・パフォーマンス・アーツ代表 小林 敬子
	内容 ・方法	<ul style="list-style-type: none"> 福祉レクリエーションの演習をとおして、その基礎指導用や望ましい人間関係の在り方などを研修する。 介護・福祉レクリエーションの概念の講義及び実施方法を学習する。 	

成 果

- ・ 毎回幅広い年齢層の参加者があり、各自の職場で有効に役立つと好評である。
- ・ 参加者のニーズに応えることができる事業であると考えている。

課 題

- ・ 近年、青少年指導者の需要は高まっているにも拘わらず、参加者は減少傾向にある。
- ・ 魅力あるプログラム作りを行い、参加者の増加を図りたい。

問合せ先

新潟県立青少年研修センター 研修課 TEL 0256-77-2111

家族で楽しむわくわくランド

趣 旨 家族間の絆を深めるとともに、家庭・地域の指導力の向上を図る。

実施主体 新潟県立青少年研修センター

参加対象 家族、親子（子供は小学生以上）

参加者数 延べ 246名

回 数 3回 **日 数** 各回 1泊2日

場 所 新潟県立青少年研修センター

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	7月22日（土）～ 7月23日（日）	第1回 家族で夏を楽しもう！	にいがた貝友会 村山 均 高等学校教諭 浅田 善弘 青少年研修センター研修課職員
	内 容 ・ 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・海辺での活動やテント生活などとおして、親子・家族間の絆を深める。 ・テント設営・海浜レクリエーション・キャンプファイヤー・海岸のフィールドワークなどの体験をする。 	
2	期日・時間	テーマ	講師等
	10月14日（土）～ 10月15日（日）	第2回 家族で秋を楽しもう！	フジタファーム代表 藤田 毅 青少年研修センター研修課職員
内 容 ・ 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・芋掘りや搾乳といった農業体験を行うとともに、野外炊事などとおして、親子・家族間の絆を深める。 ・酪農体験・ランタン制作・ナイトハイク・バター作り・芋掘り・アウトドアクッキングなどの体験をする。 		
3	期日・時間	テーマ	講師等
	1月20日（土）～ 1月21日（日）	第3回 家族で冬を楽しもう！	にいがた野鳥の会 会員 青少年研修センター研修課職員
内 容 ・ 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・失われつつある昔の遊びや餅つきなどの体験とおして、親子・家族間の絆を深める。 ・野鳥観察・餅つき・キャンドルファイヤー・遊び道具作り・昔の遊びなどの体験をする。 		

成 果

- ・ たいへん人気のある事業であり、毎回募集開始日にすべての定員が埋まってしまいう状態である。
- ・ 参加者からは、日ごろなかなか子供と触れ合う時間がないが思わぬ体験ができたこと好評である。また、これを機会に子供とキャンプなどにも行ってみたいというような意見もあった。趣旨の成果が期待できる事業であると考えている。

課 題

- ・ 成果の部分で述べたように、募集定員がすぐに埋まってしまいう状況にあるので、どのような募集方法が適切かを考える必要がある。
- ・ 参加した家族が地域に戻った際、子供会等の行事に積極的に関わってもらえるようなプログラムも考える必要がある。

問合せ先 新潟県立青少年研修センター 研修課 TEL 0256-77-2111

青少年指導者グループワーク研修

趣 旨 グループワークトレーニングの理解と、青少年指導者の向上を図る。

実施主体 新潟県立青少年研修センター

参加対象 教員、青少年教育担当者、18歳以上の青年（高校生を除く）

参加者数 32名

回 数 1回 **日 数** 2泊3日

場 所 新潟県立青少年研修センター

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月3日（金）～ 11月5日（日）	「気付きと関わりを学ぶ」	青山学院大学文学部教育学科教授 樋田 大二郎
	内 容 ・ 方 法	・グループワークトレーニングの理論と実践をとおして、グループワークの理解を深めるとともに、青少年指導者としての資質や指導力の向上を図る。 ・体験・ふりかえり・講義という順序で、人間関係づくり・集団づくりなどの研修を行う。	

成 果

- ・ 2泊3日にわたってかなりハードな研修ではあったが、内容の濃い充実した研修であった。特に、活動をしてからその活動を踏まえた講義を行うことにより、より深い理解ができた。
- ・ 今回の研修では、集団作り・サークル作りの実践力を養成することと、参加者の自己長の機会とすることをねらいとして行ったが、参加者のニーズにも対応しており、たいへん好評であった。

課 題

- ・ グループワークトレーニングのしっかりとした研修を行うためには、最低でも2泊3日の期間は必要であるが、参加者がそれだけの期間を確保するのはたいへんなようであり、日程の調整も含めた検討をしなければならない。
- ・ グループワーク研修は、その専門性もあり、講師の確保がたいへんである。毎年、担当した講師の方に、次回講師の紹介をしてもらっているが、うまくいかないこともある。

問合せ先 新潟県立青少年研修センター 研修課 TEL 0256-77-2111

カヌーに親しもう

趣 旨 家族でカヌー体験を通して、海洋スポーツの楽しさを体験し、家族のふれあいを深める。

実施主体 新潟県少年自然の家

参加対象 小学校4年生から中学生を含む家族

参加者数 50名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 4時間30分

場 所 胎内川河口（胎内市）

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	7月30日(日) 9:30～15:00	家族でカヌーを楽しむ	自然の家指導課職員
1	内 容 ・ 方 法	○出会いのつどい、準備 ・ライフジャケットの着用の仕方を学ぶ ・カヌーを艇庫から所定の位置に運ぶ ○パドル操作の練習とカヌー乗船方法等 ・陸上でパドルの持ち方、前進・後退・停止の操作方法について学ぶ ・水中（腰のあたりまで入水）でパドルの操作を学ぶ。水の抵抗を体験する。 ・カヌーへの乗船、降り方、船に入り込んだ水の出し方を学ぶ。 ○カヌーに慣れる ・胎内大橋付近や上流の浅い所で、パドルの操作などについて慣れる。 ○カヌーを楽しむ ・チャレンジコース（海に出る）と、ゆったりコース（川を中心）に分かれて、カヌー漕艇を楽しむ。 ○人員確認、後かたづけ、着替え ・人員を確認、カヌーを艇庫に収納する。 ・アンケートを書く。 ○別れのつどい	

成 果

- この事業は、胎内川河口で一日たつぷりとカヌー等の海洋スポーツの楽しさを体験するとともに、家族の触れ合いを深めることをねらっている。午前中はカヌー漕艇の基礎的な技能を学んだり、体験したりする。午後は、それぞれの力量に応じてカヌー漕艇を楽しむよう活動を組んでいる。普段体験することの少ないカヌー漕艇は、初心者から経験者まで人気のある活動になっている。
- 参加者から、カヌー漕艇体験を通して、普段の生活とは違った視点から自然を見つめることができた。また、家族で触れ合い一時を過ごすことができ良かったという感想をたくさんいただいた。

課 題

- 川や海が活動場所となっているため、当日の天候・流れの速さ・水の濁り・波の高さなどによって、活動内容や範囲が制限されたり、安全に対する配慮がいつそう必要になったりする。そのため、状況判断を的確に行うとともに、指導者たちの指導体制をしっかりと整えておく必要がある。
- 猛暑の時期に実施するため、水分を十分補給させてり、休憩時間を十分に取ったりすることも大切である。

問合せ先 新潟県少年自然の家指導課(担当 五十嵐晃、土田亮)
TEL：0254-46-2224

利用団体引率者研修会

- 趣 旨**
- 活動プログラムの作成と検討を行う。
 - 引率当日の活動について、自ら事前に研修を行う。
 - 同日に重複して利用している団体同士でプログラムについて調整を行う。

実施主体 新潟県少年自然の家

参加対象 小中学校、少年団体の引率指導者

参加者数 50名程度

回 数 3回 **日 数** 1日日程 **時 間** 6時間

場 所 新潟県少年自然の家・周辺の赤松林、胎内川河口（胎内市）

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	4月18日(火) 5月18日(木) 6月19日(月) 9:30～16:30	当施設を利用した活動計画の立案と事前研修	自然の家指導課職員
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○施設を利用するに当たって <ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用の仕方や活動計画立案の方法について学ぶ。 ○野外活動の実習 <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーリング、ウォークラリー、野外ワイド、その他の4つのグループに分かれて実習し、指導方法を学ぶ。 ○キャンプファイヤーの学習 <ul style="list-style-type: none"> ・丸太の組み方、火文字の作り方、放送施設の使い方について学ぶ。 ・キャンプファイヤーの進め方について学ぶ。 ・キャンドルサービスについて学ぶ。 ○野外すいさんの学習 <ul style="list-style-type: none"> ・すいさん施設の使い方を学ぶ。 ・かま場の作り方、火の起こし方について学ぶ。 ○プログラムの検討と作成、調整 <ul style="list-style-type: none"> ・団体間、職員を交えてプログラムの検討・調整を行う。 ○カヌー指導と現地の下見 <ul style="list-style-type: none"> ・カヌー指導のビデオを視聴する。 ・カヌー艇庫と胎内川河口を下見する。 	

成 果

- ・ この事業のねらいは、①事前準備②体験③団体間の活動調整である。この後当施設を利用する団体が準備を進めていく上で、また、当日の活動を円滑に行っていくための大切な研修会の一つとなっている。オリエンテーリングやキャンプファイヤー、すいさんなどは短時間ではあるが、参加者に体験していただいている。参加者の中には、ビデオやデジカメで施設や活動などを収録している方もおられ、事前指導に活用しているようだ。

課 題

- ・ 今年度からパワーポイントを使って説明するなど、分かりやすい説明に心がけた。
- ・ 研修会に参加できない引率者がおり、当日の活動について団体間の調整がうまくいかないことがあった。
- ・ 野外活動を収録したビデオを作成し、研修会で活用したり、貸し出しでの活用を促したりしていきたい。

問合せ先 新潟県少年自然の家指導課(担当 高橋勝吾、五十嵐晃)
TEL：0254-46-2224

チャレンジわんぱく

趣 旨	自然体験や共同生活体験を通して、豊かな心とたくましい身体を育てる。
実施主体	新潟県少年自然の家
参加対象	小学校4年生～6年生
参加者数	70名
回数	3回
日数	6日間
時間	12時間～13時間
場所	新潟県少年自然の家・周辺の赤松林、胎内川河口、鳥坂山、胎内スキー場他
内容	

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	8月7日(月) ～8月8日(火)	川と海にチャレンジ	自然の家指導課職員
	内容・方法	<1日目> 午前11時15分から午後8時30分 <2日目>午前9時から午後0時40分 ○カヌー体験・パート1 ○カヌー体験・パート2 ○キャンプファイヤー ※ 2日間にわたって、たっぷりとカヌー漕艇を楽しむ。漕艇の技能の上達に応じて、胎内川の河口だけでなく、上流や海にも漕ぎ出し、水遊び・海水浴も楽しんだりする。 ※ 雨天案……フォトオリエンテーリングとインドアストレッチ、創作活動	
2	10月7日(土) ～10月8日(日)	森と山に挑戦	自然の家指導課職員
	内容・方法	<1日目> 午後0時30分から午後6時 <2日目>午前9時から午後0時40分 ○芋堀り ○鳥坂山登山～石切コース～ ○野外炊さん ※ 野外炊さんでは、掘ったサツマイモを使って料理を行う。1日目の夜は、翌日の登山のためのオリエンテーションや準備を行う。翌日の登山に備え、しっかりと休息を取らせる。登山を通じて、頂上に登った爽快感を味わわせたい。 ※ 雨天案……自然の家周辺の自然物を使って、創作活動	
3	1月27日(土) ～1月28日(日)	雪にチャレンジ	自然の家指導課職員 胎内スキークラブ
	内容・方法	<1日目> 午後0時30分から午後8時 <2日目>午前9時から午後0時40分 ○団子の木の装飾 ○ゲレンデスキー ○さいの神づくりとどんと焼き ※ 小正月の伝統行事を体験させる。 ※ 2日目のスキー実習は、技能の程度に応じてグループを編成し、それぞれのグループに指導者が付く。	

成果

- この事業は、自然を生かした野外活動や共同宿泊体験をとおして、自然にチャレンジし、友情や勇気・決断の大切さを体験的に学ぶことをねらっている。特に、夏は川や海、秋は山、冬は雪にたっぷりと触れ合う体験ができるよう活動内容を工夫するとともに、時間も十分に設定している。カヌーやスキーの参加者の満足度が高く、好評を得ている。

課題

- 学年の発達段階に配慮した指導を行うとともに、安全を十分に配慮したプログラムづくりに努めたい。
- 野外活動の専門家を指導者に活用するなど、外部指導者の積極的な活用を今後考えてみたい。

問合せ先 新潟県少年自然の家指導課（担当：阿部雅俊、五十嵐晃）
 0254-46-2224

自然・ふれあい！家族のつどい

趣 旨	春・夏・冬の自然体験活動を通して、家族のふれあいを深め、豊かな情操を育てる。
実施主体	新潟県少年自然の家
参加対象	小・中学生を含む家族
参加者数	70名
回数	3回
日 数	6日間
時 間	12時間～13時間
場 所	新潟県少年自然の家・周辺の赤松林、胎内川河口、大峰山桜公園他
内 容	

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	4月22日（土） ～4月23日（日）	山野草採りと桜見ハイキングで春の自然を満喫	自然の家指導課職員 胎内市食生活改善推進員
	内容・方法	<p><1日目> 午後1時30分から午後8時30分 ○山野草採りとクッキング</p> <p><2日目> 午前9時から午後0時40分 ○大峰山桜見ハイキング (チェックポイントで、クイズを解きながら親子で歩く)</p> <p>※ 山野草採りは、自然の家周辺の赤松林の中で行う。グループごとに指導者が付き、山野草の見分け方や調理の仕方を教える。</p> <p>※ 採集した山野草は、体育館で携帯用コンロで調理する。</p>	
2	9月2日（土） ～9月3日（日）	海洋スポーツや夏の自然を体験	自然の家指導課職員
	内容・方法	<p><1日目> 午後1時30分から午後7時 ○フォトオリエンテーリング ○アウトドアクッキング</p> <p><2日目> 午前9時から午後0時40分 ○地引き網 ○カヌー体験 ○いかだとボート体験</p> <p>※ カヌー漕艇は年齢制限あり。幼い子どもたちは、保護者と一緒にかだやボートの乗船を楽しむ</p> <p>※ 残暑がまだ厳しい時期なので、参加者の健康面に配慮して活動をする。適宜、休憩や水分補給に気を配る。</p>	
3	12月2日（土） ～12月3日（日）	クリスマスで家族のふれあい	自然の家指導課職員
	内容・方法	<p><1日目> 午後1時30分から午後8時30分 ○クリスマスケーキづくり ○キャンドルサービス</p> <p><2日目> 午前9時から午後0時40分 ○自然を生かしたクリスマスリースづくり</p> <p>※ キャンドルサービスは、クリスマスパーティをイメージして構成する。サンタの登場やプレゼントの贈呈あり。</p> <p>※ 2日目は、リースづくりの前に自然の家周辺を回って必要な木の実や葉を集める。</p>	

成 果

- ・ 自然の家周辺の赤松林、胎内川河口、近辺の自然環境を利用して、家族で春・夏・冬の自然に触れ・親しむことや家族の触れ合い・家族同士の触れ合いをねらっている。また、各回の活動の一つに必ずクッキングを取り入れ、協力して一つのものを作り上げる体験や参加者同士のコミュニケーションを密にすることをねらっている。参加者には、家族の団らんの一時を楽しく・有意義に過ごすことができると好評である。

課 題

- ・ 胎内市の施設や自然環境を活用した活動プログラムの開発をさらに進めるとともに、参加者のアンケートなどを参考にしながら活動の充実をさらに図ってきたい。
- ・ 参加申込方法について改善の必要がある。

問合せ先 新潟県少年自然の家指導課（担当：五十嵐晃、阿部雅俊）
Tel：0254-46-2224